

Série des récitals Sonates et Musique de chambre 2011
le monde de
NAOKI TSURUSAKI
violoncelliste / compositeur



津留崎直紀
(チェロ、作曲)
ソナタと
室内楽シリーズ 2011

リヨンで過ごす私の大きな楽しみの一つは、津留崎さんと音楽について語り合うことです。
このオペラの演目は、色とりどりで、普段あまり目にしないような作品も多く並びます。
その一つ、最近演奏した、ストラヴィンスキーの「鶯」の中に、この作曲家特有の異なる顔が幕ごとに現れるのを見事に見抜いた津留崎さんの楽譜の読みの深さには、改めて驚かされたものです。
チェリストにして作曲家、二つの花を見事に実らせた、彼の音楽家としての円熟の夕べを皆様に心から楽しんで頂きたいと思います。

大野和士 (リヨン国立歌劇場管弦楽団 首席指揮者)

各公演 全席自由 ¥4,000

セット割引 (3回券10,000円 / 4回券12,000円 / 6回券18,000円)
※セット割引はプロアルテムジケのみ取扱 (03-3943-6677 info@proarte.co.jp)

●チケット取扱先:

プロアルテムジケ 03-3943-6677 www.proarte.co.jp
電子チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 141-443]
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 www.t-bunka.jp
東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999
(11/25、11/26、12/3 公演のみ)

●マネジメント・お問い合わせ:

プロアルテムジケ **MUSICA**
http://www.proarte.co.jp 03-3943-6677
info@proarte.co.jp

●Vol. 1
11/16 [水]
19:00 開演 (18:30 開場)

東京文化会館小ホール (JR上野駅 公園口)



共演: 野平一郎 (ピアノ)

- L.v.ベートーヴェン: チェロソナタ第1番 ヘ長調 op.5-1
第2番 ト短調 op.5-2
第3番 イ長調 op.69
第4番 ハ長調 op.102-1
第5番 ニ長調 op.102-2

●Vol. 2
11/25 [金]
19:00 開演 (18:30 開場)

東京オペラシティ リサイタルホール

[京王新線 (都営地下鉄新宿線) 乗り入れ] 初台駅東口 徒歩5分以内 (東京オペラシティビル直結)



共演: 植田克己 (ピアノ)

- R.シューマン: 5つの民謡風小品 op.102
●F.シューベルト: アルペジオネ・ソナタ イ短調 D821
●J.ブラームス: チェロソナタ第1番 ホ短調 op.38
第2番 ヘ長調 op.99

●Vol. 3
11/26 [土]
18:00 開演 (17:30 開場)

東京オペラシティ リサイタルホール



共演: 渡辺健二 (ピアノ)

- B.バルトーク: ラプソディー第1番
●I.F.ストラヴィンスキー: イタリア組曲
●L.ヤナーチェク: おとぎ話
●S.プロコフィエフ: チェロソナタ op.119 ハ長調

●Vol. 4
12/3 [土]
14:00 開演 (13:30 開場)

東京オペラシティ リサイタルホール



共演: 海老彰子 (ピアノ)

- C.D.ビュッシー: チェロソナタ 二短調
●F.ブーランク: チェロソナタ
●G.フォーレ: チェロソナタ第1番 二短調 op.109
第2番 ト短調 op.117

●Vol. 5
12/8 [木]
19:00 開演 (18:30 開場)

東京文化会館小ホール

出演: フロレスタン・カルテット

(Vn. 上野真樹 / 津留崎直紀、Va. 上野なち子、Vc. 津留崎直紀)

ジャン=ミシェル・ベルテリ (クラリネット)



- L.v.ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第12番 変ホ長調 op.127
●津留崎直紀: クラリネットと弦楽四重奏のための「ある風景の記憶」
●J.ブラームス: クラリネット五重奏曲 口短調 op.115

●Vol. 6
12/9 [金]
19:00 開演 (18:30 開場)

旧東京音楽学校奏楽堂 (JR上野駅 公園口 徒歩10分)

共演: 上野真樹 (ヴァイオリン)

ジャン=ミシェル・ベルテリ (クラリネット)

野平一郎 (ピアノ)

- 丹波明: エレメンタル IV
●野平一郎: チェロとピアノのための「二つの肖像」
: エニグム (謎)
●津留崎直紀: 無伴奏チェロのための リチエルカーレ
●O.メシアン: 世の終わりのための四重奏

Message ● メッセージ

作曲をするようになってから音楽の聴き方が大きく変わったと思う。参考になるものは何でも聞きたくなったし、あらゆる音楽に偏見が無くなくなった。クラシックは当然としても、ジャズ、民俗音楽、時には流行音楽でも聴く。バロックからと限定しても現代までに「音楽」はほとんど無尽蔵にある。オーケストラの仕事はそういう好奇心を持つものには素晴らしい環境である。黙っていても向こうから音楽がやってくる。その中にはこの仕事をしていなければ多分知りえなかった曲も数多くある。そんな気持ちである夏、買いためてあったチェロの楽譜を片端から読み漁った。名作ばかりではないが「とにかく読む」という作業は、図書館で文献を漁る研究者が持つであろう楽しさを味わった。普通楽器奏者はこういう練習をあまりしない教師もそういう読み散らしを厳しく戒めるのではないか。だが、自分にとっては素晴らしい経験だった。今回のシリーズはそんな中から発想された。膨大な曲を切り詰めてもこれだけたくさんになってしまった。残った曲は次回の楽しみにしておく。こんな事を企画するのは暴挙という人もいるかもしれないが、錚々たる共演者に賛同していただき快諾してくれた。こういう素晴らしい音楽家たちと知り合いだった事の幸運さを思わずにはいられない。

チェリスト・作曲家 津留崎 直紀

Profile ● プロフィール



津留崎 直紀 [チェロ、作曲] Naoki Tsurusaki, violoncello & composer

1953年生まれ。1975年東京藝術大学在学中にフランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学び一等賞で卒業。三木敬之、故 レース・フラッシュ、故 モーリス・ジャンドロン各氏等に師事。リヨン室内管弦楽団、北海道交響楽団、江別弦楽アンサンブル、小林道夫、植田克己、野平一郎、大野和士各氏と共演の他、エクサンプロヴァンス音楽祭、ベルリオーズ音楽祭などに出演。リヨンオペラ座の室内楽シリーズでは野平一郎のチェロとピアノの為の「二つの肖像」を世界初演。バッハ「無伴奏チェロ組曲」全曲演奏会の実況録音をライブ・ノーツからリリースし好評を得

た。「聴きてはいつしか、理屈を超えた感動に誘われる。[...]そして、第5番の深淵から第6番の高揚へと向かう辺りが、またとりわけ忘れがたい。この様な幸せな形でこの尋常ならざるチェリストを知り得たことは大きな喜びだ。」(濱田滋郎 「レコード芸術」2005年5月号 準特選)
近年は作曲にも力を入れ、リヨン歌劇場の室内楽シリーズで「Impromptu II」、ピアノとクラリネットの為の「ある風景の記憶」などが取り上げられた。2007年には広島と奈良でクラリネットと弦楽四重奏の為の改訂版「ある風景の記憶」が初演され好評を博した。リヨンオペラ座の創立以来のメンバー。



野平 一郎 [ピアノ、作曲] Ichiro Nodaira, piano & composer

東京藝術大学、同大学院修士課程を修了後、パリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとして内外の主要オーケストラにソリストとして出演する一方、名手と数多く共演し室内楽奏者としても活躍。作曲家としてもフランス文化庁をはじめ委嘱を含む多くの作品があり、近年ではオペラ「マドルガーダ」、歌曲集「悲歌集」、チェロのための「謎」、「トリプティック」、チェロと管弦楽のための「響きの連鎖」、混声合唱のための「フランスの7つの詩」などを作曲し、いずれも絶賛を博している。中島健蔵音楽賞、尾高賞、芸術選奨文部大臣新人賞、京都音楽賞実践部門賞、サントリー音楽賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2005年より静岡音楽館AOI芸術監督。東京藝術大学作曲科教授。



◎ 林 喜代輝

植田 克己 [ピアノ] Katsumi Ueda, piano

東京藝術大学音楽学部及び大学院修了。故 伊達純、松浦豊明の各氏に師事。在学中第38回日本音楽コンクール入選。1971年安宅賞、1973年にクワイター賞を受賞、デトモルト北西ドイツアカデミーに留学、引き続きベルリン芸術大学にてクラウス・シルデ氏に師事。1977年ロン＝ティボー国際コンクール第2位。1978年～1979年ベルリン芸術大学助手を務め、1980年の帰国途に欧州各地で演奏活動を展開。N響、都響、札幌、大フィル、九響、ドイツ・バッハ・ソリストなど協演。1986年から2005年まで「植田克己ベートーヴェンシリーズ」全27回を開催し、ピアノ/ソナタ、変奏曲、室内楽曲、歌曲を網羅して演奏する。2007年より「植田克己作曲家シリーズ」を開始。ソロはもとより室内楽奏者としても幅広く活躍している。現在、東京藝術大学音楽学部教授、及び音楽学部長。



渡辺 健二 [ピアノ] Kenji Watanabe, piano

1954年生まれ。名古屋市立菊里高校音楽課程卒業後、東京藝術大学に進み、同大学院修了、第43回日本音楽コンクール第一位、海外派遣コンクール特別表彰受賞。1978年よりハンガリー、リスト音楽院に留学。1979年ミュンヘン国際コンクール第三位、1980年第一回日本国際音楽コンクール第五位、1981年リスト・バルトーク国際コンクール第四位。ヨーロッパ各国で活発な演奏活動を重ねた後、1983年、リスト音楽院より芸術演奏家証書を受け帰国。1986年ハンガリー政府よりリスト記念メダルを授与される。現在、東京芸術大学で教鞭をとる傍ら、日本を代表するリストのスペシャリストとして、多くのリサイタル、室内楽、オーケストラとの共演などに活躍中である。故山上豊、故永井進、田村宏、松浦豊明、P.ショイモシュ、G.アゴステイ、G.シェベック、T. ヴァン・デル・ワール各氏に師事。1988年より3年間、佐々木基之氏に分離唱の指導を受ける。又、1992年「空の日」芸術賞(日本航空協会)を受賞し、1993年'94年の1年間ウィーンにて研鑽を積む。現在、東京藝術大学理事、副学長、芸術情報センター長。



海老 彰子 [ピアノ] Akiko Ebi, piano

芸大1年在学中、第41回日本音楽コンクール優勝。パリ国立高等音楽院最優秀卒、同研究科卒。ロン＝ティボーでグランプリ、ショパン、リーズ各国際コンクール上位入賞同時に特別賞受賞。日本ゴールドディスク大賞2回、日本ショパン協会賞、93年仏政府から文芸シュバリエ勲章、98年パリ名誉市民メダル、02年エクソン・モービル音楽賞本章等を受ける。30年来、日本、欧州、米国、カナダ、中南米、ロシア、中国、中近東、エジプトなど世界各国で演奏家として活発に活躍中。NHK交響楽団をはじめ、日本の主要交響楽団はもちろんのこと、仏、英、ポーランド、アルゼンチン他、各国のオーケストラと共演。2008年秋マルタ・アルゲリッチ女史とのピアノ・デュオコンサートの模様は、2009年正月から現在に至るまで、欧州各国、イスラエル・ルーマニア等多くの国々で度々TV放映されている。各国でマスタークラスを開催、主要国際音楽コンクールの審査員依頼も多い。横浜市招待国際ピアノ音楽祭実行委員長、2012年第8回浜松国際ピアノコンクール審査員長。現在、日本大学芸術学部大学院ピアノ科教授。日本ショパン協会理事。元東京芸術大学客員教授。

フロレスタン・カルテット Florestan Quartet

(Vn. 上野真樹 / 津留崎晴代, Va. 上野なち子, Vc. 津留崎直紀)

オペラ「フィデリオ」の主人公レオノーレノの夫で、政治犯として獄中にいるフロレスタン。圧制からの解放というテーマのこのオペラはまた夫婦愛も影の重要なテーマである。ベートーヴェンのカルテットに魅せられたカルテットにこれほど相応しい名前は無いと自負している。ベートーヴェン、バルトークを中心にドイツロマン派、フランス近代、はもとより現代曲も積極的に手がけ、日本、フランス、ドイツで公演する。ドイツ「ルール音楽祭」には二度招聘される。NHKには「大フーガ」、ドビュッシーで出演。ドイツ作曲家連盟の依頼により、W.Th. Hain Trumbild、O.ベニングホッフ弦楽三重奏曲、K.H.ヴァーレン Ricordandi a Verdi G.ヴィーゼマン Ausklang – in zndig Einklang をCD録音。(Best. – Nr.10033)



上野 真樹 [ヴァイオリン] Masaki Ueno, violin

東京芸術大学、ドイツ・ハノーファー音楽大学ソリストコース卒業。ドイツ・ヒルデスハイム歌劇場、ホーファー・シンフォニカー、フィルハーモニア・ブダペスト、広島交響楽団のコンサートマスターを歴任後、フリーの演奏家として恩師ユディー・メニューインの「音楽家は平和の戦士」をモットーに「ドイツ平和村」「国境なき医師団」「アムネスティ・インターナショナル」等の活動支援コンサートなど、世界各地で多彩な演奏活動を展開中。アフガニスタン子供教育支援のために多数のCDをリリース。
<http://music.ap.teacup.com/masaki333/>



◎ Satoshi Shimada

津留崎 晴代 [ヴァイオリン] Haruyo Tsurusaki, violin

東京都出身。幼少より五十嵐守康氏にヴァイオリンを師事。東京藝術大学で岩崎洋三氏のもとで学ぶ。同学卒業後パリでジョゼフ・カルヴェ氏、ジェラルド・ブーレ氏に師事。78年以来リヨン国立管弦楽団に所属。管弦楽団の室内楽シリーズなどに多数出演。



上野 なち子 [ヴィオラ] Nachiko Ueno, viola

奈良出身。東京藝術大学を卒業後渡独。岩崎洋三、ウエルナー・ホイトリンク氏らにヴァイオリンを師事。ヒルデスハイム市立歌劇場、ホーファー・シンフォニーオーケストラ、フィルハーモニア・ブダペストの各オーケストラを経て、現在はドイツボルケン市音楽学校で後進の指導にあたる傍ら、ヴァイオリン及びヴィオラ奏者として活躍。



ジャン＝ミシェル・ベルテリ [クラリネット]

Jean-Michel Bertelli, clarinet

ジュネーヴ高等音楽院トマス・フリードリヒのヴィルトオーソクラスで1等賞特別賞を獲得した後、1986年にニューヨークのインターナショナル・クラリネット・ソサエティ主催の国際コンクール1等賞。翌年トゥーロン国際コンクール2等賞。日本、アメリカ、ニュージーランドなどでソリスト、室内楽奏者として招聘される。マンチェスター・ハレ管、ヴァージニア響、国立チェコ響、バークレー響、リヨンオペラ座響などで、ポール・ボリヴニク、グント・ナガン、ポール・フリーマン、ジェラール・コルステン、ウィリアム・クリスティなどの指揮者と共演。アメリカ人作曲家リチャード・フェリシアノから献呈されたクラリネット協奏曲をサンフランシスコで初演、アルバムに収録(US)によりCDがブラハで録音された。室内楽では、プリテン四重奏団、ヴェルタヴォ四重奏団、チャイコフスキー三重奏団、ピエール・ローラン、エマール、クリスチャン・イヴァルディ、ペーター・チャバ、ナンシー・アーゼンタ、エディッタ・グルヴェローヴァなどと共演。エポック楽器にも興味を示し、J.E.ガーディナーに招かれ、1999年から2003年の間レヴォーシシーネール&ロマンティック・オーケストラ、イングリッシュ・バロック・ロイスツの首席奏者を務めた。また2008年にはアムステルダム王立コンサートホウ管の客員首席を務めた。世界の主要楽器メーカーから数多くの要請を受け、1994年からYAMAHA MUSIC EUROPA、2008年からRICOのそれぞれ専属アーティスト、そのほかBG-Franceとも協力関係にあり、これらのコラボレーションによりヨーロッパ、アジア、アメリカで数多くのコンサート、マスタークラスを行っている。現在、リヨン国立歌劇場管弦楽団首席クラリネット奏者。